

平成 20 年宮城県の経済動向

概況

平成20年の宮城県経済を振り返ると、緩やかな上昇から横ばい傾向で推移していた生産は、秋口以降、電子部品・デバイス工業などの業種が減産態勢に転じ、鉱工業生産指数（原指数）が急速に低下した。住宅投資は、年後半に分譲住宅に動きがみられたものの、貸家が年間を通じて低調に推移した影響から全体として減少となった。個人消費は引き続き低調に推移したが、乗用車については前半に普通車、年後半に軽自動車に動きがみられた。雇用は、弱い動きで推移していたが、求人・求職の増減幅が大きくなるなどさらに厳しい状況がみられるようになってきた。このような中、公共投資は、前年度比は増加となったものの、請負金額自体は低調に推移しており、建設業を中心とした地域の中小企業には厳しい状況が続いている。

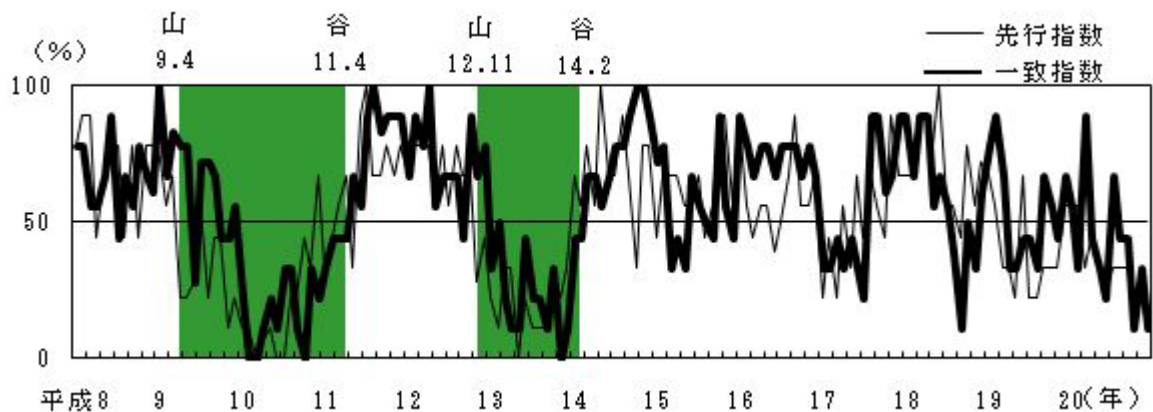
その一方で、原油価格の高騰などにより消費者物価指数は緩やかな上昇が続いた。企業倒産は、前年比は増加となったものの、件数は小康状態が続き、平成18年から引き続き200件を下回り、負債総額も低水準となった。

主要経済指標の推移（前年比、前年同期比）

		平成15年	16	17	18	19	20				21	
							1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	
生産	鉱工業生産指数 ¹	-	10.2	2.0	5.8	0.5	4.1	0.6	1.0	0.6	16.5	-
	大口電力使用量	0.4	4.2	1.2	3.5	1.4	1.4	3.8	3.5	1.5	10.9	-
建設投資	新設住宅着工戸数	10.1	3.8	9.2	7.4	14.4	21.0	30.7	36.5	6.1	2.3	-
	公共工事請負金額 ²	13.0	11.2	8.0	10.2	7.7	5.3	-	13.9	14.6	3.8	28.1
消費	大型小売店販売額	4.3	3.0	3.3	2.1	2.2	2.1	1.3	2.2	2.3	2.4	-
	乗用車（軽含）新車登録台数	0.1	0.4	0.8	1.5	5.2	3.6	1.0	2.9	0.3	11.4	-
物価	仙台市消費者物価指数 ¹ （生鮮食品を除く総合指数）	0.1	0.5	0.4	0.1	0.2	1.1	0.8	1.0	1.8	0.8	-
雇用	有効求人倍率 ³	0.14	0.07	0.06	0.08	0.00	0.25	0.25	0.22	0.24	0.28	-
	実質賃金指数 ^{1・4}	10.5	1.3	2.4	0.3	2.8	1.9	0.4	5.1	1.6	3.4	-
倒産	企業倒産件数	30.3	8.9	3.6	20.7	1.1	3.3	33.3	14.3	0.0	23.2	-

- 1 鉱工業生産指数、仙台市消費者物価指数、実質賃金指数は平成17年=100
- 2 公共工事請負金額は、年度値
- 3 有効求人倍率については、前年（同期）差、単位はポイント
- 4 実質賃金指数は、事業所規模30人以上、製造業、現金給与総額

景気動向指数の推移



(資料:宮城県統計課)

生産

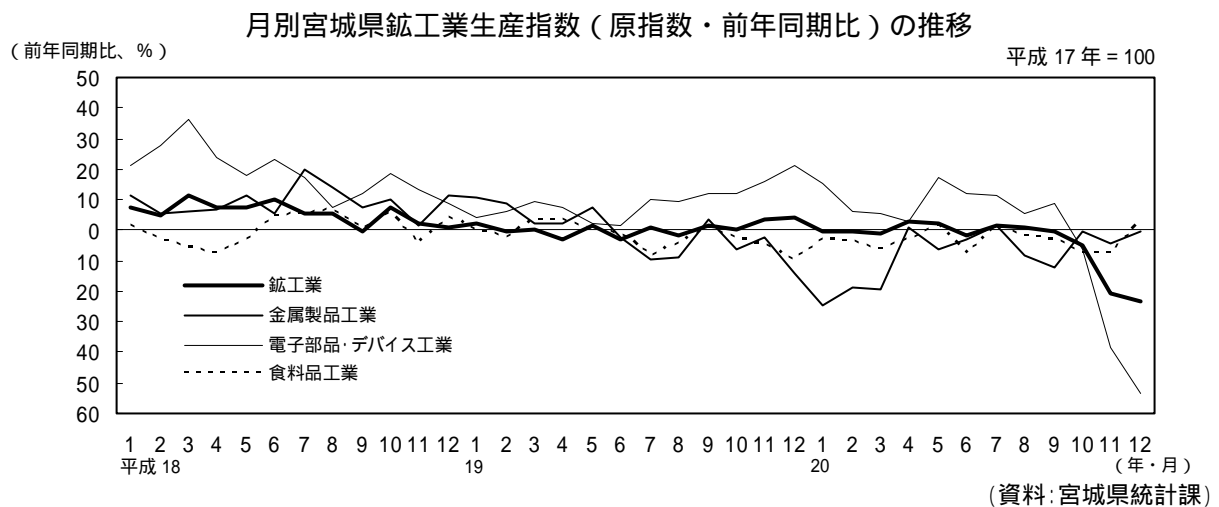
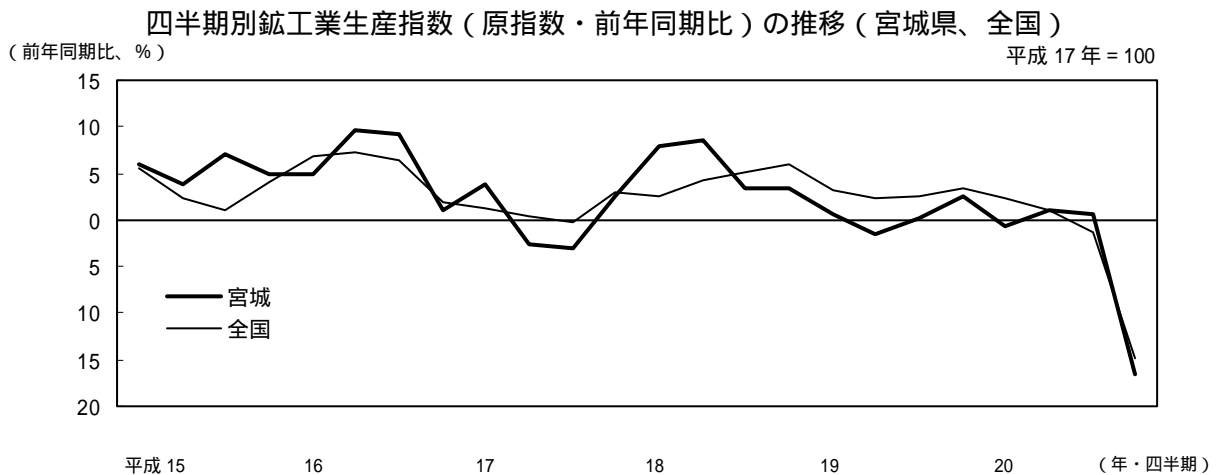
(1) 鉱工業生産指数

平成20年の鉱工業生産指数（原指数）は101.9（平成17年=100）で、前年比4.1%の低下となり、3年ぶりに低下となった。業種別の前年比をみると、電子部品・デバイス工業、食料品工業、金属製品工業など全20業種中13業種が低下となり、パルプ・紙・紙加工品工業、輸送機械工業など6業種が上昇となった。なお、非鉄金属工業は前年と同水準となった。

年間の推移をみると、全体としては横ばい傾向で推移していたものの、第4四半期に入るところから、これまで指数を押し上げてきた電子部品・デバイス工業などの業種が減産態勢に転じ生産調整を始めたことが影響し、鉱工業生産指数（原指数）は急速に低下した。

ウエイトの大きい業種を中心にみると、電子部品・デバイス工業は第1四半期から第3四半期には前年同期を上回って推移していたものの、第4四半期に急速に低下し、3年ぶりの低下となった。

また、食料品工業、金属製品工業、一般機械工業は年間を通じて前年同期を下回った。



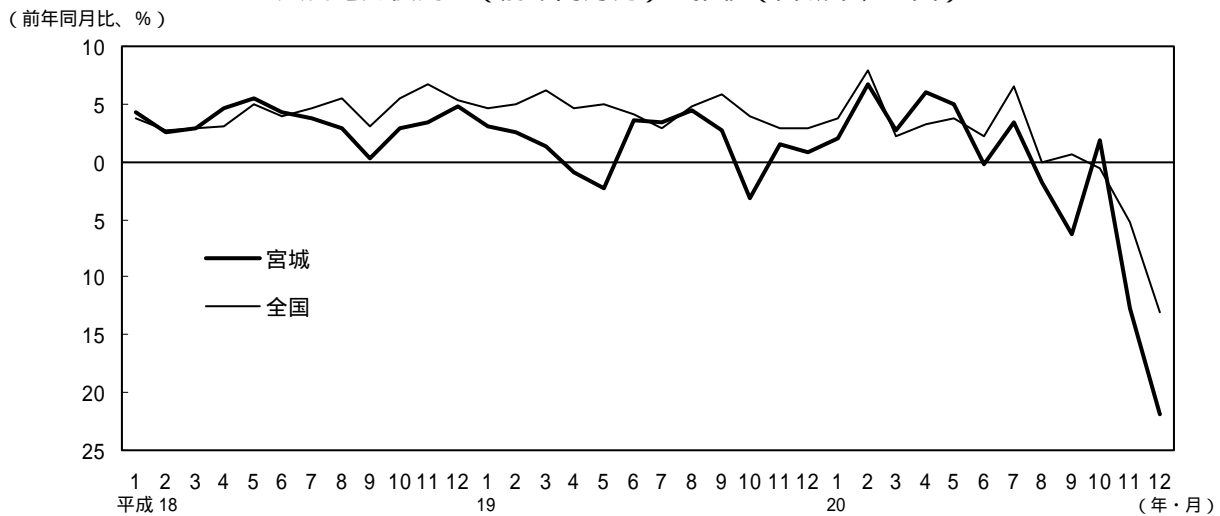
(2) 大口電力使用量

平成20年の大口電力（契約電力500kW以上）使用量は46億1,445万 kWh で、前年比1.4%の減少となり、5年ぶりに減少となった。

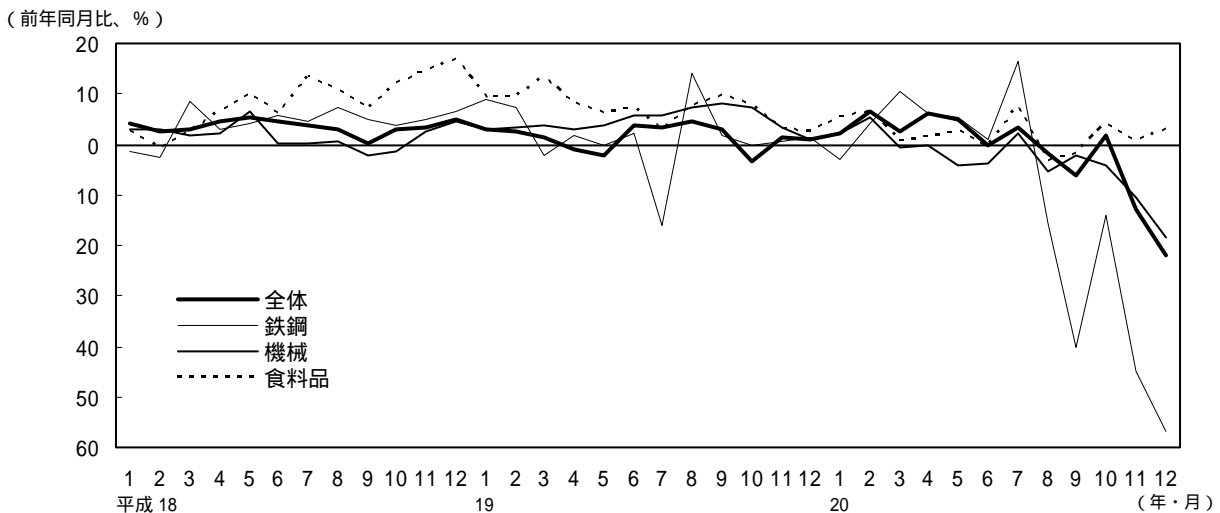
四半期別に年間の推移をみると、年前半は前年同期を上回ったが、年後半は前年同期を下回った。

主要業種別にみると、食料品分野は年間を通じて前年同期を上回り、前年比は2.0%増加し、4年連続の増加となった。一方、機械分野は第1四半期に前年同期を上回ったが、第2四半期以降は前年同期を下回り、前年比は3.4%減少し、5年ぶりに減少となった。鉄鋼分野は、年前半は前年同期を上回ったが、年後半は前年同期を下回り、前年比は11.9%減少し、3年ぶりに減少となった。

大口電力使用量（前年同月比）の推移（宮城県、全国）



月別業種別大口電力使用量（前年同月比）の推移（宮城県）



（資料：（株）東北電力宮城支店）

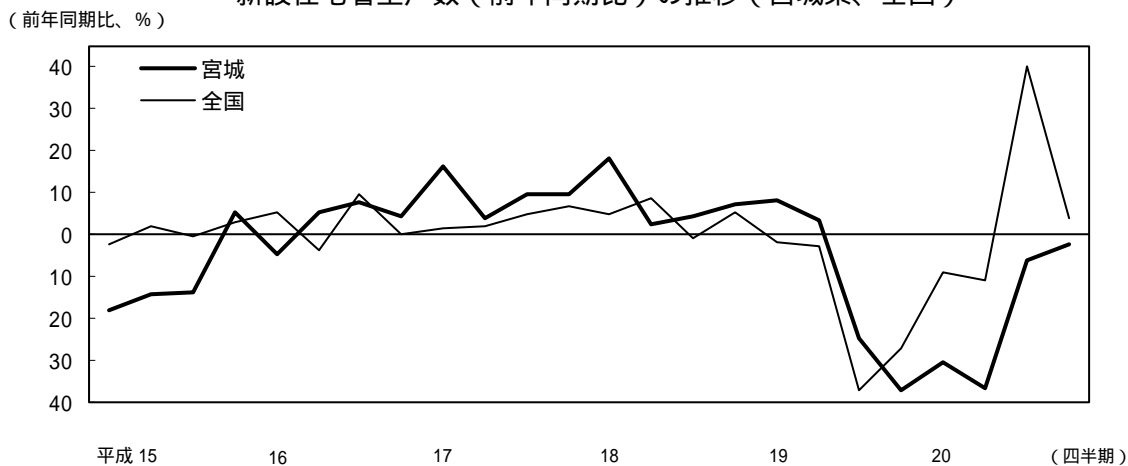
建設投資

(1) 新設住宅着工戸数

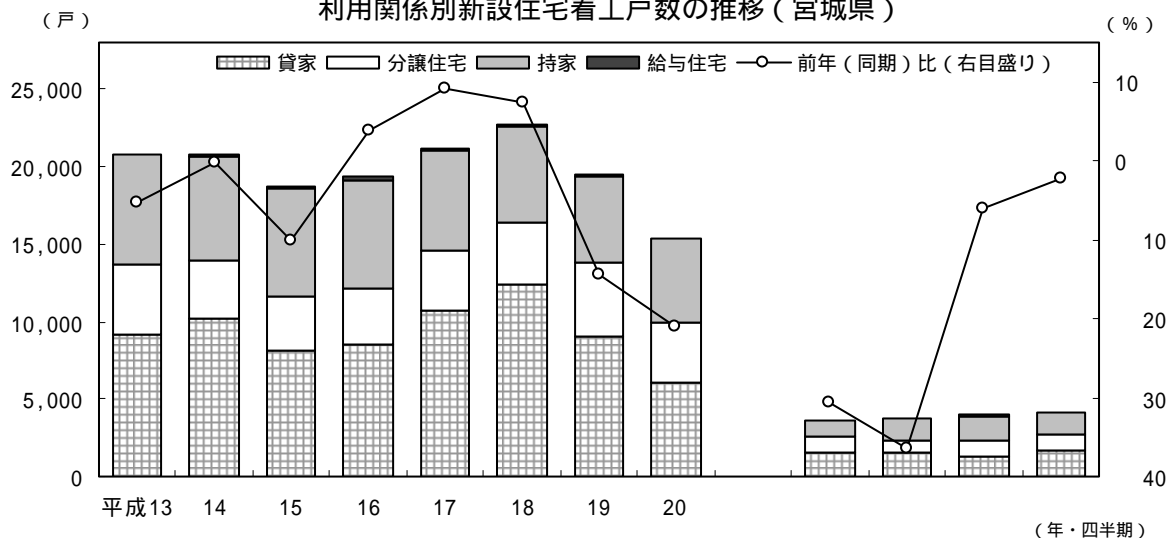
平成20年の新設住宅着工戸数は1万5,375戸で前年比21.0%の減少となり、2年連続の減少となった。四半期別に年間の推移をみると、年間を通じて前年同期を下回った。

利用関係別にみると、貸家（建築主が賃貸する目的で建築するもの）は、年間を通じて前年同期を下回り、前年比は32.8%の減少となり、2年連続の減少となった。貸家の構成比は39.4%となり、8年ぶりに40%を下回った。持家（建築主が自分で居住する目的で建築するもの）は、第3四半期に前年同期を上回ったが、他の四半期は前年同期を下回ったため、前年比は2.7%の減少となり、5年連続の減少となった。持家の構成比は35.2%となり、3年ぶりに30%を上回った。分譲住宅（建売または分譲の目的で建築するもの）は、マンションの着工戸数の増減が影響し、年前半は前年同期を大きく下回ったが、年後半は前年同期を上回った。前年比は19.0%の減少となり、5年ぶりに減少となった。全体に占める分譲住宅の構成比は25.0%となった。

新設住宅着工戸数（前年同期比）の推移（宮城県、全国）



利用関係別新設住宅着工戸数の推移（宮城県）



（資料：国土交通省）

(2) 公共工事請負金額

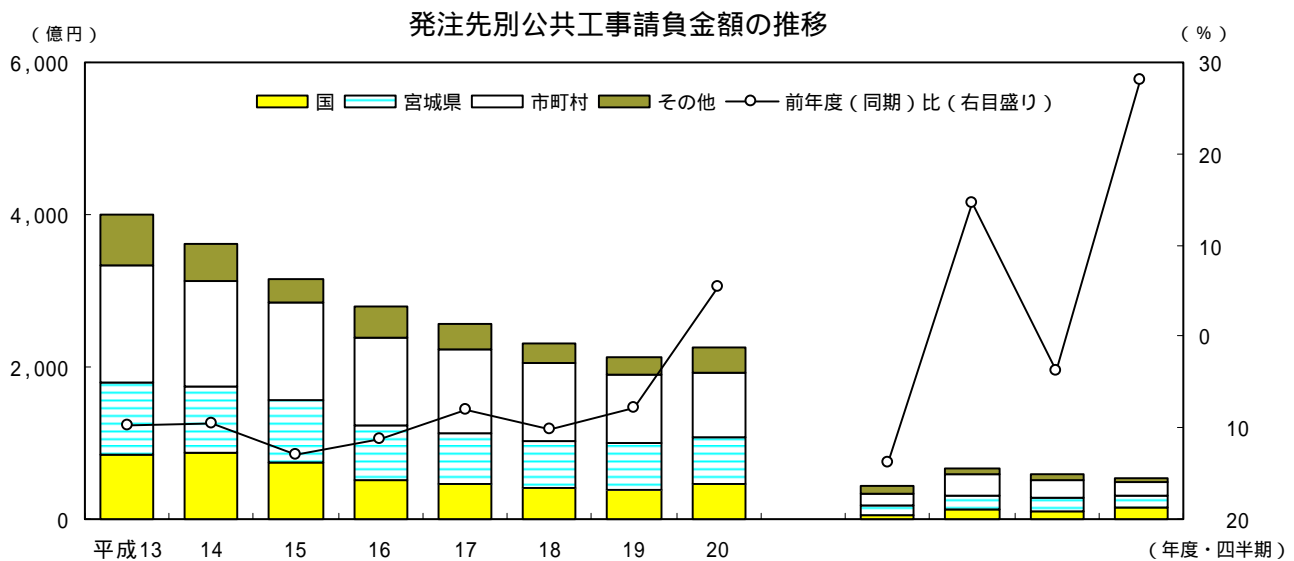
平成20年度の公共工事請負金額は2,247億円で、前年度比5.3%の増加となり、10年ぶりに増加となった。

年度間の推移をみると、第1四半期(平成20年4～6月)、第3四半期(10～12月)は前年同期を下回ったが、第2四半期(7～9月)、第4四半期(平成21年1～3月)は前年同期を上回った。

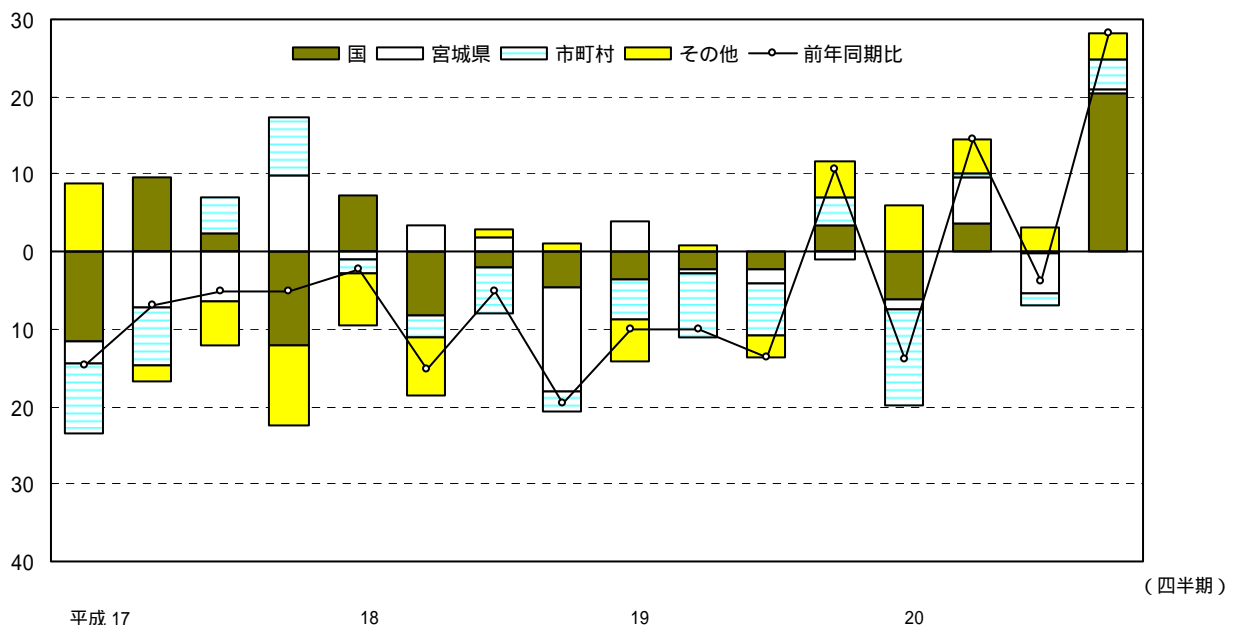
発注者別にみると、国は第1四半期、第3四半期は前年同期を下回ったが、第2四半期、第4四半期は前年同期を上回ったため、前年度比は20.8%の増加となった。

宮城県及び市町村は、第2四半期、第4四半期は前年同期を上回ったが、第1四半期、第3四半期は前年同期を下回ったため、前年度比はそれぞれ0.3%、5.6%の減少となった。

公共工事請負金額は、年度をベースにしているために動向や資料は年度を基準としています。



四半期別発注先別公共工事請負金額(寄与度)の推移



(資料:東日本建設業保証(株))

個人消費

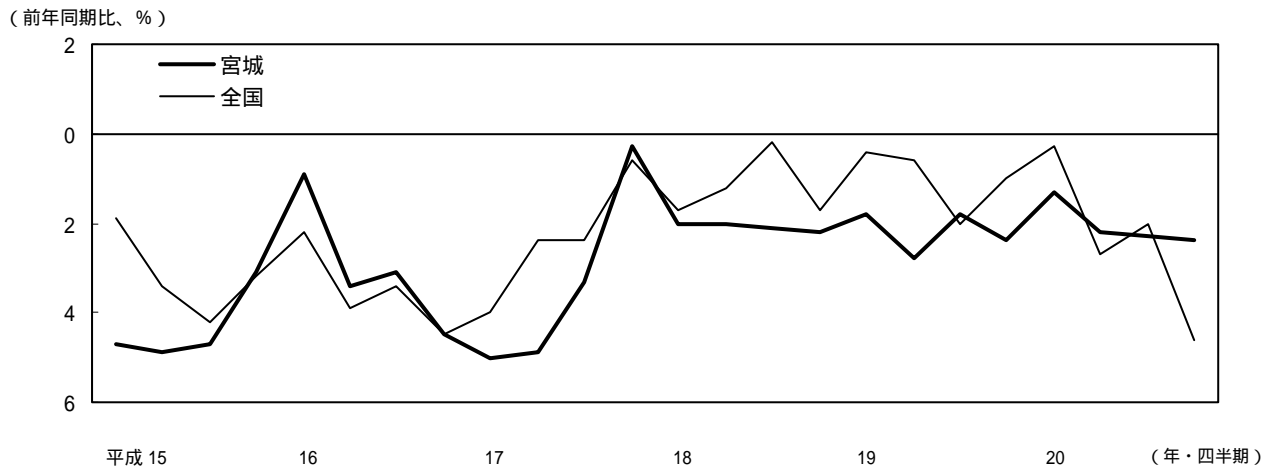
(1) 大型小売店販売額

平成20年の大型小売店販売額は、4,067億3,800万円で、既存店比較の前年比は2.1%の減少となり、12年連続の減少となった。

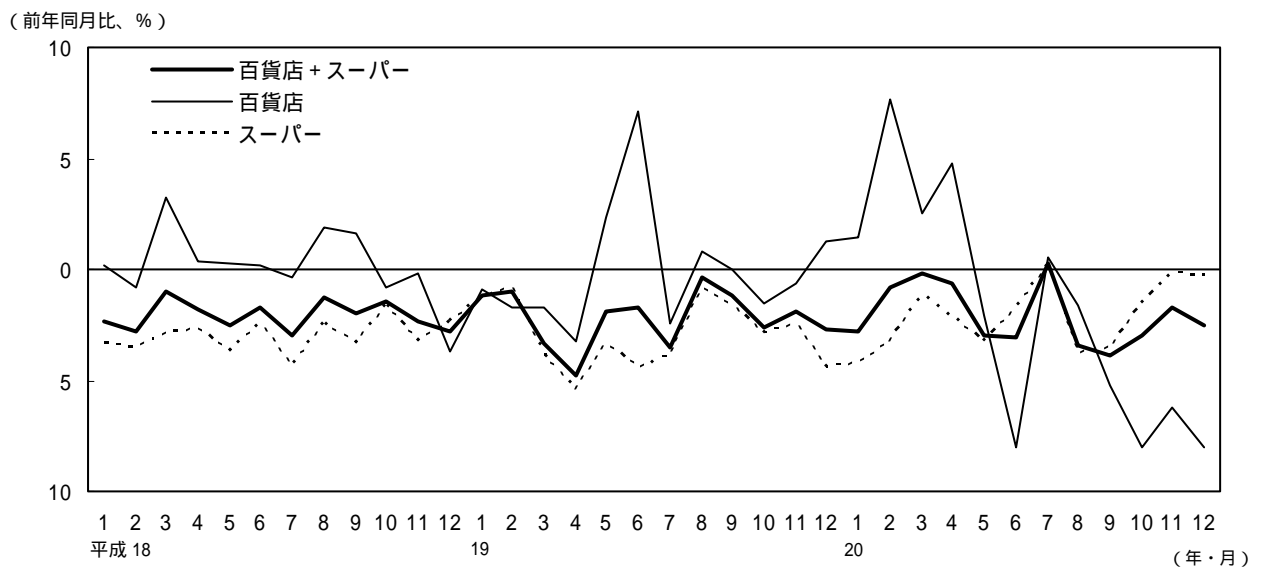
四半期別に年間の推移をみると、年間を通じて前年同期（既存店比較）を下回った。

業態別にみると、百貨店は、第1四半期は前年同期（既存店比較）を上回ったが、第2四半期以降は前年同期を下回ったため、前年比は2.1%減少し、11年連続の減少となった。スーパーは年間を通じて前年同期（既存店比較）を下回ったため、前年比は2.1%減少し、14年連続の減少となった。スーパーを全店舗比較でみると、年間を通じて前年同期を上回ったため、前年比は2.3%増加し、6年連続の増加となった。

大型小売店販売額（前年同期比）の推移（宮城県、全国）



月別業態別大型小売店販売額（前年同月比）の推移（既存店比較）(宮城県)



(資料:東北経済産業局)

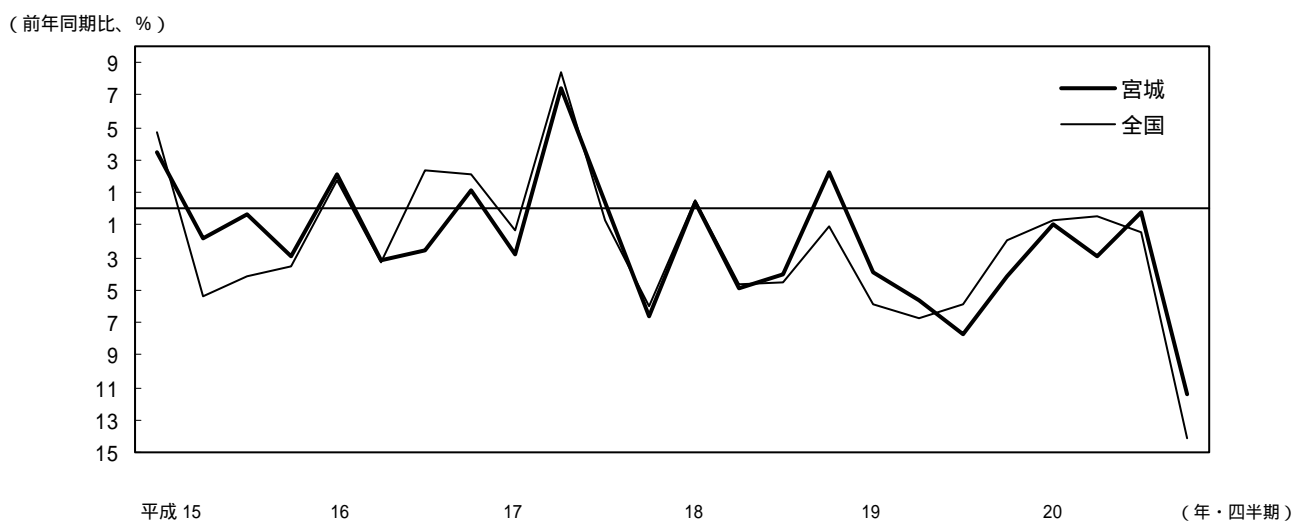
(2) 乗用車新車登録台数

平成20年の軽自動車の新車届出台数を合わせた乗用車新車登録台数は8万551台で、前年比3.6%の減少となり、8年連続の減少となった。

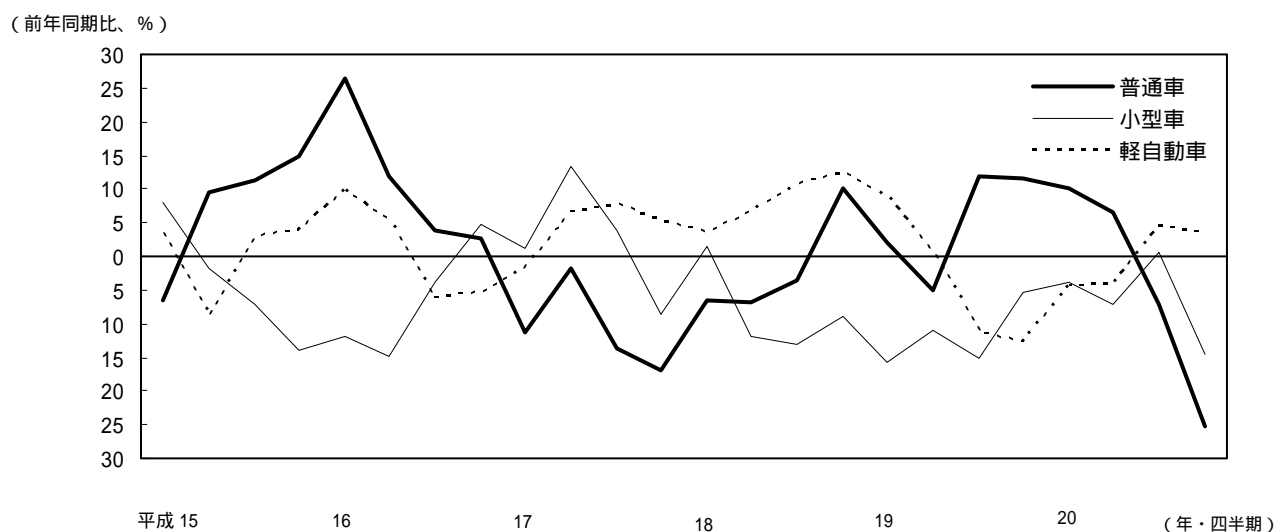
四半期別に年間の推移をみると、年間を通じて前年同期を下回った。

車種別にみると、普通車は、年前半は前年同期を上回ったが、年後半は前年同期を下回ったため、前年比は3.6%減少し、2年ぶりに減少となった。小型車は、第3四半期に前年同期を上回ったが、他の四半期は前年同期を下回ったため、前年比は5.9%減少し、3年連続の減少となった。軽自動車は、年前半は前年同期を下回り、年後半に前年同期を上回ったものの、前年比は0.8%減少し、2年連続の減少となった。

乗用車新車登録台数（前年同期比）の推移（宮城県、全国）



車種別乗用車新車登録台数（前年同期比）の推移（宮城県）



(資料:自動車販売協会連合会宮城県支部、全国軽自動車協会連合会)

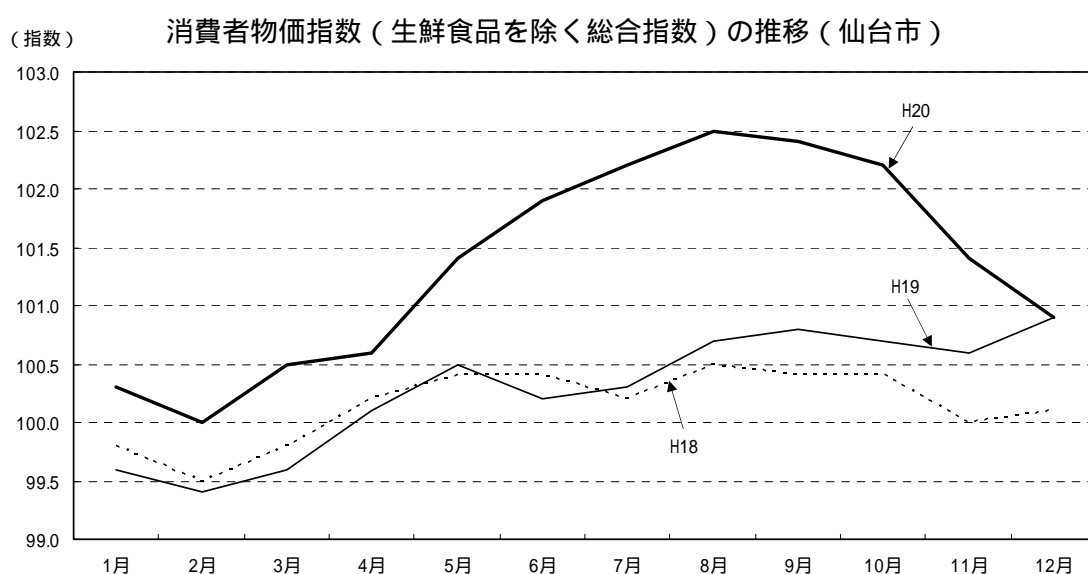
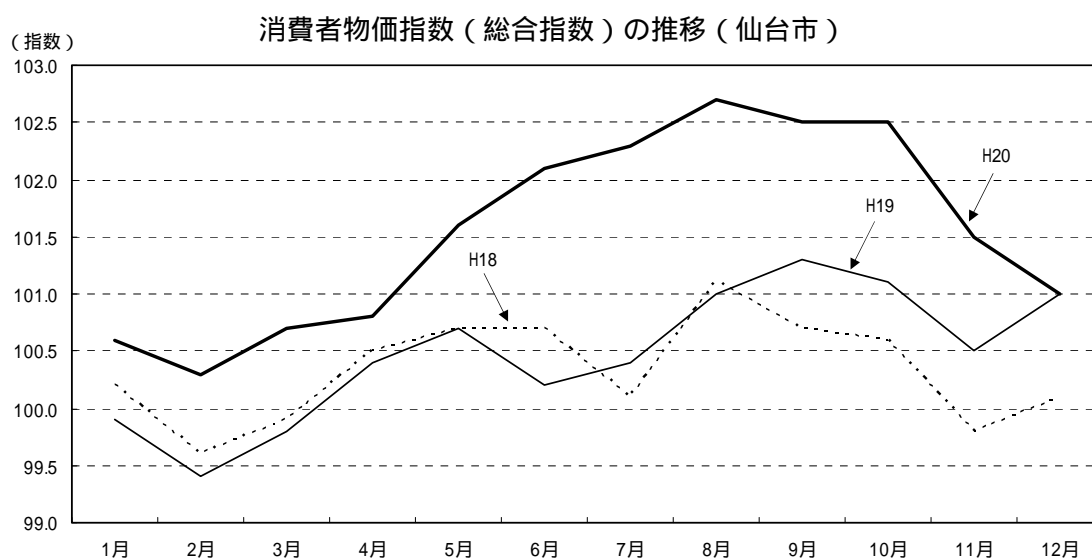
物 価

(消費者物価指数)

平成 20 年平均仙台市消費者物価指数（平成 17 年 = 100）は、総合指数が 101.6 で、前年比 1.1% の上昇となり、3 年連続の上昇となった。生鮮食品を除く総合指数は 101.4 で、前年比 1.1% の上昇となり、3 年連続の上昇となった。

年間の動きをみると、原油価格の高騰による自動車等関係費や他の光熱などの値上がり、穀類、菓子類など食料の値上がりなどにより上昇した。

月別に要因をみると、原油価格高騰に伴い自動車等関係費、他の光熱の値上がり、原材料高による穀類、菓子類、外食など食料の値上がりの影響により、1 月から 11 か月連続で前年同月の水準を上回って推移したが、12 月は自動車等関係費、他の光熱の値下がりなどにより前年同月と同水準となった。



(資料出所:宮城県統計課)

雇 用

(1) 有効求人倍率及び新規求人倍率

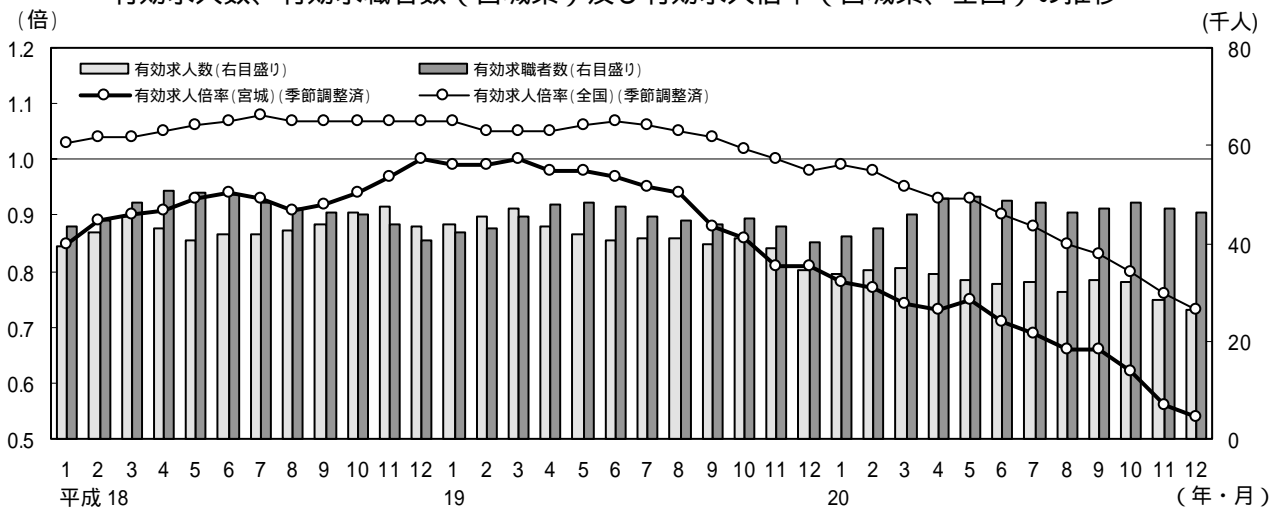
平成20年の有効求人人数(年平均)は3万1,868人で、前年比23.4%の減少となった。有効求職者数(年平均)は4万6,748人で、前年比4.4%の増加となった。これにより、有効求人倍率(原指数)は0.68倍で前年から0.25ポイント低下し、7年ぶりに低下となった。

四半期別に年間の推移をみると、有効求人人数は、年間を通じて前年同期を下回った。有効求職者数は、第1四半期は前年同期を下回ったが、第2四半期以降は前年同期を上回った。有効求人倍率(原指数)については、年間を通じて前年同期を下回った。

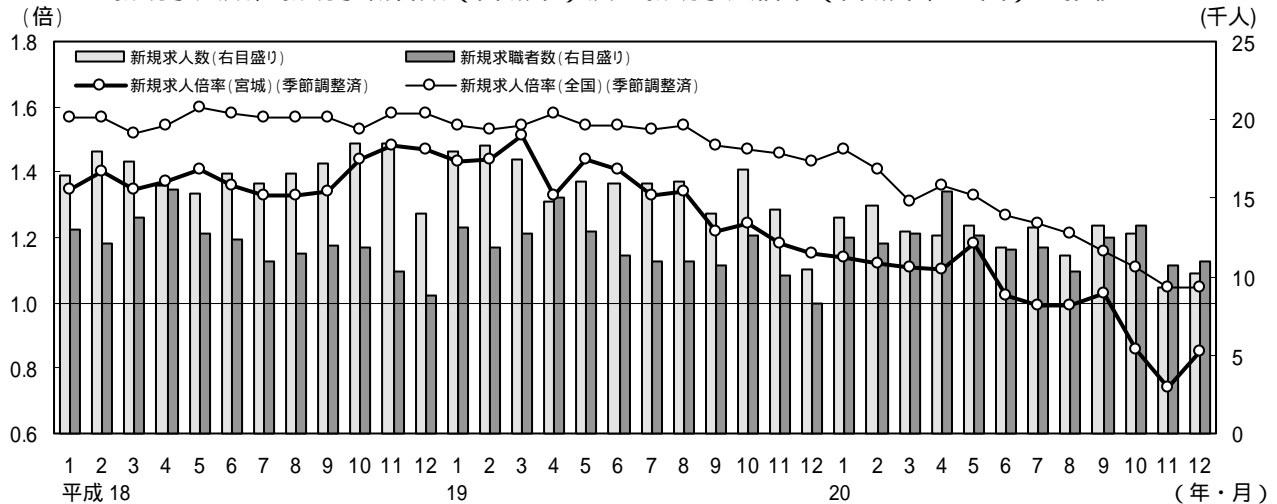
また、新規求人人数(年平均)は1万2,432人で、前年比20.8%の減少となった。新規求職者数(年平均)は1万2,230人で、前年比4.4%の増加となった。これにより、新規求人倍率は1.00倍で前年から0.34ポイント低下し、2年連続の低下となった。

四半期別に年間の推移をみると、新規求人人数は、年間を通じて前年同期を下回った。新規求職者数は、第1四半期は前年同期を下回ったが、第2四半期以降は前年同期を上回った。新規求人倍率(原数値)については、年間を通じて前年同期を下回った。

有効求人人数、有効求職者数(宮城県)及び有効求人倍率(宮城県、全国)の推移



新規求人人数、新規求職者数(宮城県)及び新規求人倍率(宮城県、全国)の推移



(資料:宮城労働局)

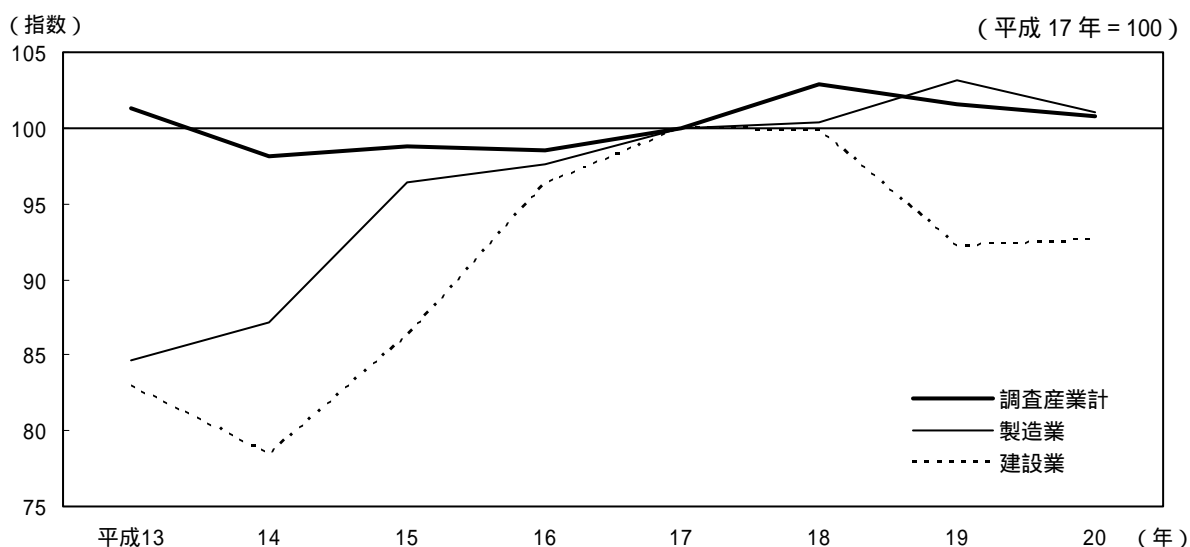
(2) 賃金

平成 20 年の実質賃金指数（平成 17 年 = 100）の調査産業計（事業所規模 30 人以上）は 100.8 で、前年比 0.8% の低下となった。

年間の推移をみると、第 1 四半期は前年同期を上回ったが、第 2 四半期以降は前年同期を下回った。

主要業種別に年間の推移をみると、製造業（事業所規模 30 人以上）は、第 1 四半期、第 3 四半期に前年同期を上回ったが、第 2 四半期、第 4 四半期は前年同期を下回り、前年比 1.9% の低下となった。建設業（事業所規模 30 人以上）は、第 2 四半期を除いて前年同期を下回ったものの、前年比は 0.4% の上昇となった。

主要業種別実質賃金指数の推移（事業所規模 30 人以上）



(資料出所:宮城県統計課)

倒産

(企業倒産)

平成20年の宮城県内の企業倒産（負債総額1千万円以上）の件数は188件で、前年比3.3%の増加となり、3年ぶりに増加となった。負債総額は573億7,100万円で、前年比11.5%の増加となった。

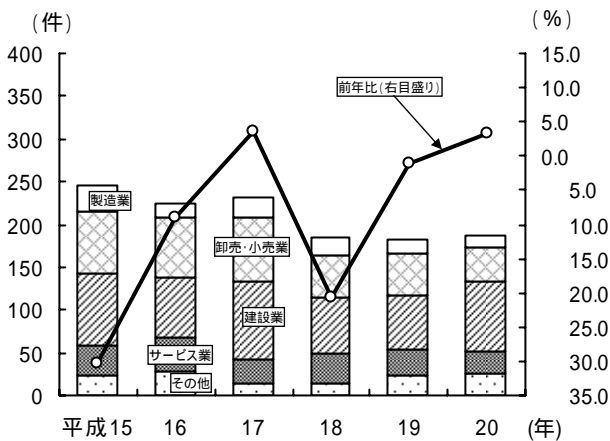
これらのうち、不況型倒産（販売不振、売掛金回収困難、赤字累積を原因とする倒産）の件数は154件で、前年比2.0%の増加となり、2年連続の増加となった。全体に占める不況型倒産の構成比は81.9%となった。

大型倒産の状況は、件数が13件で前年より3件の増加、負債総額は250億9,000万円で前年比23.8%の増加となった。

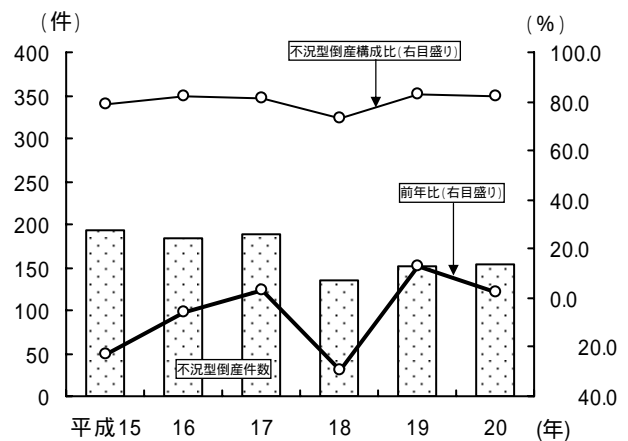
業種別に倒産件数をみると、建設業の81件が最も多く、次いで、卸売・小売業の41件、サービス業の27件、製造業の14件と続く。

原因別に倒産件数をみると、販売不振の116件が最も多く、次いで、赤字累積・その他の39件、他社倒産の余波の14件、放漫経営の11件と続く。

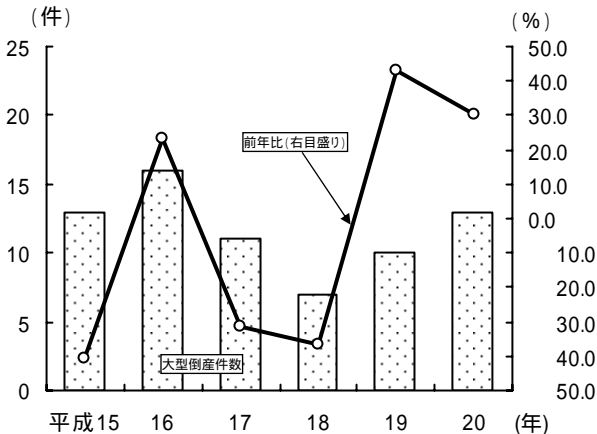
業種別倒産件数と前年比の推移



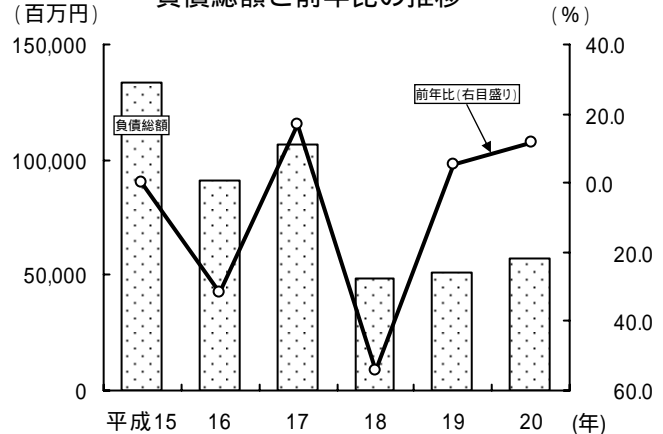
不況型倒産件数と前年比、構成比の推移



大型倒産件数と前年比の推移



負債総額と前年比の推移



(資料: (株)東京商工リサーチ)